

平成30年度 第42回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

男 か

男子 1回戦

会場 八潮エイトアリーナ コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名	
県立津島東高等学校	11	3	—	13	大分高等学校
		8	—	18	
		—	—	—	
		—	—	—	
		—	—	—	
		7mTC			

津島東高校のスローオフで試合開始。開始2分、先制点は、大分高校。硬い立ち上がりとなりなかなか

流れを掴めない津島東高校に対して順調に得点を重ねていく大分高校。なんとか流れを掴みたい津島

東高校は前半8分で早めのタイムアウト。巻き返しを図りたい津島東高校だったが、大分高校の

GKの好セーブもあり開始19分まで無得点に抑えられる。対する大分高校はスピードに乗った

多彩なコンビネーションプレーで着々と得点を重ね、前半を13-3で折り返した。

後半も大分高校の勢いは止まらず、得点を重ねる。疲れの出てきた津島東高校は後半6分までに

退場者を連続で出してしまう苦しい展開。後半21分、サイドシュートが連続で決まり流れに

乗りたい津島東高校だったが、足を使った大分高校の速いDFの前にミスも重なり遂に主導権を奪えず

試合終了となった。

2019年 3月 24日

記載者氏名 横川 恵子

平成30年度 第42回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

男 き

男子 1回戦

会場 八潮エイトアリーナ コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名	
関東第一高等学校	29	12	—	14	桃山学院高等学校
		17	—	14	
		7mTC			

開始早々桃山学院高校 7番嵯峨山の2連続得点から始まり、7mTを得た桃山学院高校が主導権を握るように思えたが、これを外す。すかさず関東第一高校の素早い攻めにより2点を取り返し、その後両チームともに速い展開による一進一退の攻防が続くが、前半17分に桃山学院高校が3点差のリードを奪うと、関東第一高校も7番里見のスカイプレーなどにより得点を重ね2点差まで追いつくが、シュートミスや桃山学院高校1番温井の好セーブによりなかなか差を縮められず、桃山学院高校が2点のリードで前半が終了した。後半は、序盤に関東第一高校のミスからの速攻で桃山学院高校7番嵯峨山17番安川の2連続得点でリードを広げ、その後も得点を重ねリードを6点差まで広げると、関東第一高校がタイムアウトを取り、流れを引き戻すと、スピードに乗った動きで後半23分に点差を2点差まで縮めると桃山学院高校がタイムアウトを取るも流れを止められず、後半26分に関東第一高校2番玉井の得点により追いつき、その後桃山学院高校に2人の退場者が出るなか関東第一高校が逆転する。桃山学院高校も必死に追いつこうとするが、一步及ばず関東第一高校が振り切った。

H31年 3月 24日

記載者氏名 中島 貴規

平成30年度 第42回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

男 子

男子 1回戦

会場 八潮エイトアリーナ コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名	
岡山理科大学附属高等学校	26	11	—	14	熊本市立千原台高等学校
		15	—	19	
			—		
			—		
			—		
		7mTC			

千原台高校のスローオフで始まった。どちらも今ひとつ調子が出ず、無得点の時間が続く。開始3分、

千原台高校5番古閑のミドルシュートで先制。しかし、すかさず岡山理科大学付属高校11番三枝のサ

イドシュートで同点。開始5分、3対1。その後も両チーム得点を重ねていき、千原台高校2点リード

のまま時間が過ぎる。リードしてはいるものの流れに乗れない千原台高校、それに対し、岡山理科大学

付属高校はGK1番水川のナイスキーピングからじっくりコンビネーションで攻める。どちらも譲らな

い展開となる。前半30分を終えて、14-11千原台高校2点差リード。勝負の行方は後半へと続く。

後半立ち上がり、両チーム初戦の硬さからかミスが目立つ。ミスをいかに得点につなげるかが、勝敗

のカギを握ることだろう。そこで、じりじりとリードを広げていったのは、千原台高校であった。後半

16分、23-17千原台高校6点リード。たまた、岡山理科大学付属高校はチームタイムアウト取

る。岡山理科大学付属高校は11番三枝の速攻やカットインで応戦するも、差は縮まらず。最終的には

33-26で硬いながらも集中力を切らさなかった千原台高校の勝利となった。

2019年3月24日

記載者氏名 永田 真也

平成30年度 第42回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

男 け

男子 1回戦

会場 八潮エイトアリーナ コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名	
県立粉河高等学校	<u>21</u>	6	—	12	県利府高等学校
		15	—	15	
		—	—	—	
		—	—	—	
		—	—	—	
		7mTC			
			<u>27</u>		

開始40秒、県利府高校8番佐藤のミドルシュートでの得点でゲームはスタートした。粘り強いDF

から力強いカットイン、ミドルシュートで得点を重ね、前半20分、8-3で県利府高校リード。県立

粉河高校も1番堀田のナイスセーブから5番佐藤の速攻等で応戦するも点差は縮まらない。12-6

県利府高校リードで前半の30分を終える。

後半開始、少しでも早い時間に差を縮め、追いつきたい県立粉河高校は、5番前川のミドルシュート

で反撃の狼煙をあげる。しかし、すぐさま県利府高校は8番佐藤のミドルシュートで取り返す。残り時

間15分、差が縮まらない県立粉河高校は7人攻撃、高い位置からのプレッシャーDFで勝負に出るが、

県利府高校の勢いを止めることができない。終盤も県利府高校が退場者を出し、県立粉河高校の追いつ

くチャンスは何度かあったが、大切なところでミスが出てしまい、追いつくことはなかった。結局、

27-21で県利府高校が勝利。前半の点差が最後まで響いた結果となった。

2019年3月23日

記載者氏名 永田 真也